

鴨川のカワアイサ

カワアイサは、ここ数年前からですが、京都市上京区・北区の鴨川に飛来しています（以降、鴨川とは丸太町橋～上賀茂の御蔭橋の間のこと）。

カワアイサは、鴨川においては、秋の終わりのころに飛来し、春の初めのころまで滞在します。その間、ゆっくり十分に観察することができます。ぜひ、皆さん鴨川にお越しください。11月～3月の間です。今年度（2017年）も飛来してくれるものと期待しています。



2016/12/18 撮影

近年、鴨川では、カワアイサの観察は、至近距離でできます。

カモ類の中では、比較的警戒心の強いカワアイサを至近距離で観察できるのは、鴨川だけかもしれません。

カワアイサは、鴨川において、ここ数年前から観察されるようになりました。それは、なぜなのでしょう。



2017/03/05 落差工 下流 4羽の小群



2017/02/19 鴨川において6羽の群れはあまりない（9羽を確認したことがあるが）

近年、鴨川は整備中であります。

丸太町橋より上流は、中州を適当に残しながら、環境を急激に変化させないよう、壊さないようにと配慮して、上手く整備されています。



2016/07/10 比較的良好観察できる場所は荒神橋付近、落差工、広い浅瀬があり、上流には中州もある。

鴨川には、急流をさけるための落差工が多く設けられています。そのため川の流れは穏やかであります。落差工下流には適当に深みができています。また、中州が適当に温存されています。温存されたところは川幅が狭くなっています。その分、水深のあるところがありました。これらのことにより、今の鴨川の環境が、潜水鴨のカワアイサに好まれたのではないかと私はおもっています。

今のところ、鴨川に飛来する潜水する鳥は、カワアイサのほか、キンクロハジロ、ホシハジロ、バン、オオバン、カイツブリ、カワウなどです。ホオジロガモが飛来したこともあります。そのうちミコアイサが飛来してくれることを私は待ち望んでいます。



2012/03/27 潜水鴨のキンクロハジロ 近年の常連さんです

鴨川は1級河川ですが、今出川橋（出町柳）上流は川幅があまりありません、川幅は20～30メートルでしょうか。中州があるところでは5～10メートル以内になるところがあります。驚くことに、その川幅の狭いところにもカワアイサがいるのです。ですから至近距離で観察ができるのです。

鴨川の河川敷は、鴨川公園として整備されており、散策する人、ジョギングする人、いろいろな遊びをする人たち（老人グループや子供たちが多い）がいます、特に日・祭日はとても多いのです。京都市民の憩いの場となっています。

その人たちの多くは、野鳥がいても野鳥を見つめることもなく、素通りされています。野鳥に無関心と言ってしまおうと言い過ぎになるかもしれませんが「無関心」のようであります。野鳥があまりにもたくさんいるので、野鳥を鴨川の実環境の一部品ととらえている、とすればとてもスマートな見方ですね。鴨川には鴨がいて当たり前なのです。鴨など気にしない。

野鳥は、そういう人たちに対して警戒心を持たないようです。

鴨川においては、野鳥もまた、野鳥を認識しない人間を敵として認識せず、環境の一部品ととらえているのでしょう。鴨川は公園、人間がいて当

たり前、人間など気にしな一い、とね。ですから鴨川では、野鳥観察家は、野鳥に無関心な京都市民に紛れ込んで、そっと静かに野鳥を観察することができるのです。それも至近距離でできるのです。鴨川は、野鳥観察家にとって、なんとすばらしい野鳥観察場所なののでしょうか。

しかし、鴨川の環境は流動的です。

鴨川の整備状況によって、鴨川に飛来する鳥に変化があると考えられます。カワアイサがいつまでも飛来してくれるという保証はありません。



2017/03/14 北大路橋以北 中州の縮小やワンド形成の工事

中州を除去し、川床を平坦化すれば、深瀬がなくなります。浅瀬だけになれば、当然潜水し採餌する鳥たちは生活しにくくなり、飛来しなくなることが予想されます。カワアイサは浅瀬でもしばしば採餌していますが、浅瀬だけの鴨川では、過去の例（中州全部除去・全面平坦化）からしてカワアイサは鴨川には飛来しないものと考えられます。カワアイサの観察は、浅瀬・深瀬や中州もある「いま」が良いのです。皆さん、ぜひ2017年11月～2018年3月の鴨川にお越しください。

（＊注 今年も飛来してくれるものと信じて）

カワアイサについて、ここ数年に亘って観察をしました。それをまとめてみました。ここに発表させていただきます。以下、ご笑覧ください

☆ カワアイサ 名の由来

アイサは、日本では、カワアイサ、ウミアイサ、ミコアイサが観察できます。カワアイサは川でよくみられるから「カワ」がついたのですが、湖沼や海でもみることができます。アイサとは「秋が去る所にやってくる」からだといわれています（秋沙）。また、秋になったら早々とやってくるからともいわれています（秋早）

カワアイサは、北日本には、秋早くに飛来するので秋早が良いのでしょう。地理上、西日本の京都には秋遅くに飛来するものが多いとおもわれますので、京都鴨川では、秋沙が良いのではとおもっています。

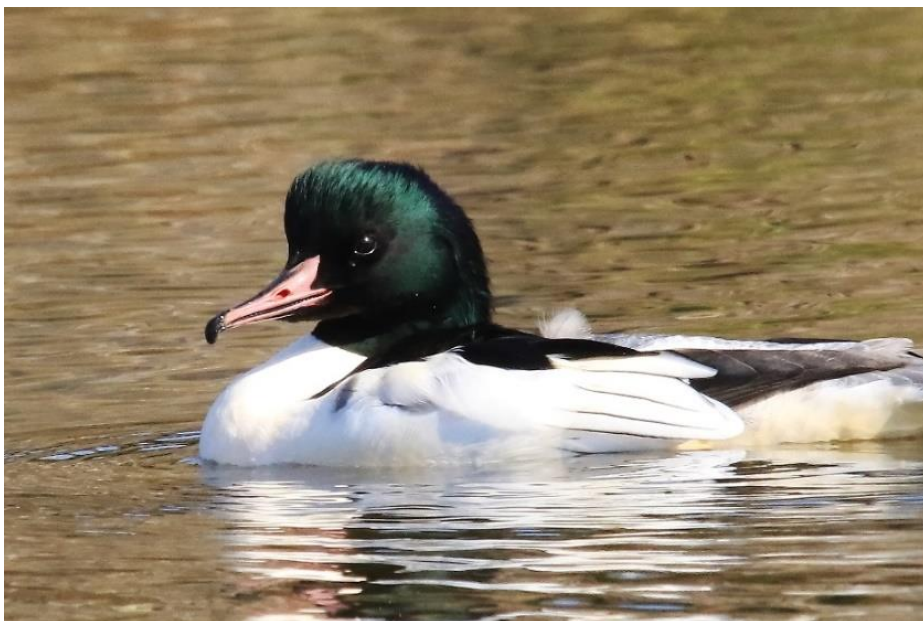
2016年12月とても綺麗な成熟した雌雄カップルを見つけました（1ページの写真）。

☆ カワアイサの雄は男前 雌はべっぴんさん

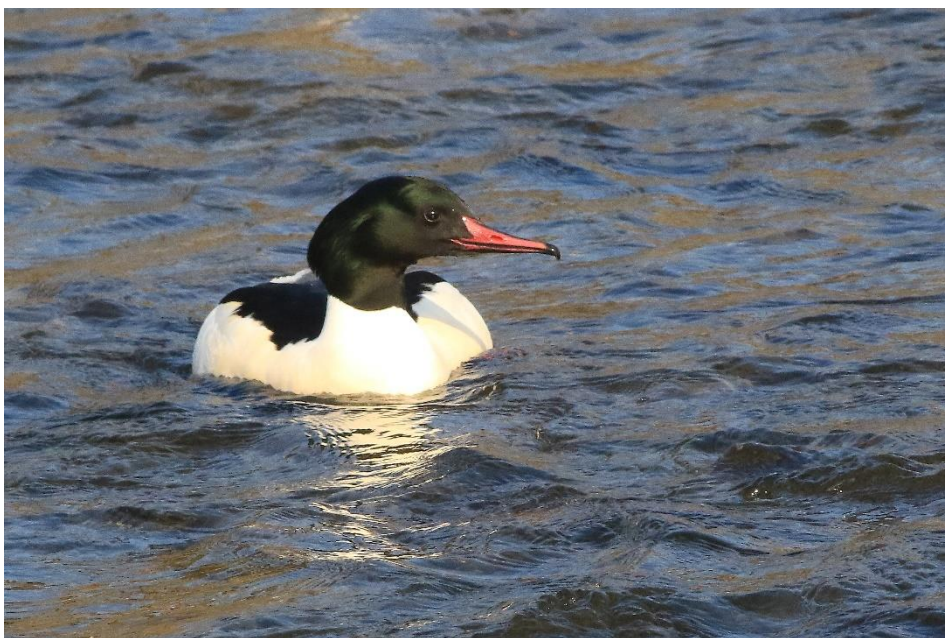
・まずは、雄の紹介



17/02/19 整髪料で整えたような頭部、「俺は男前」、とでも言っているのでしょうか



2016/12/18 折れ曲がった大きな嘴爪、「俺は強い雄」と誇示しているのでしょうか



2017/01/02 惚れ惚れする端正な精悍な顔つき、これぞカワアイサの雄の顔

雌はとても「べっぴんさん」です。一般の写真図鑑では、素敵な雌の写真があまりありません。ひどいものです。ですから私の撮ったべっぴんさんを4枚ここに紹介させていただきます。



2017/02/19 これぞ熟女の顔です。美しい。通常、鴨の雌は地味な色彩なのですが



2017/02/19 とてもチャーミング、鴨雌ナンバーワン



2017/02/19 成熟した雌の顔は、美しい栗色です。嘴と脚は美しいピンク色
嘴爪は黒い。冠羽は「たてがみ」のようですね



2017/02/19 成熟雌は鮮やかな色合いでとても美しく見えます。まさしく貴婦人です
以上4枚が成熟雌のべっぴんさんであります。美しいでしょう。

次の写真は、雌模様ですが、上の4枚の写真と比べると、鮮やかさがありません。しかし、若い、初々しいという感じがありますね



2015/04/17 この個体は若い雌とおもわれます。嘴の色に鮮やかさはありません。嘴爪はまだ真っ黒ではありません。(受傷のため渡去が遅れたものです)

☆カワアイサの生態について

・カワアイサは魚食です。その採餌方法について

1. カワアイサは、浅瀬では顔を水中に入れ、獲物を探します。



2017/03/05 浅瀬で顔を水中に入れているので、冠羽が上方向に尖がっている (左のほうの肩羽は黒い)

2. 深瀬では、潜水して川底を探索する



2017/03/05



2017/03/05 潜水中は、翼は閉じている。脚は股を広げてカエル泳ぎをしている



2017/03/12 川底を、石の間を探索しているところか

3. 水面上にいて、魚を発見すると追いかける



2017/01/02 3羽が獲物に突進している。右下のものは、すでに水中です



2017/03/12 水上を走って獲物に近づく



2017/02/26 だいぶ離れていても視認できます



2017/01/02 獲物の近くにきたら、獲物に突進です。獲物は水の中にいます



2017/03/12（上、中、下） 猛烈な勢いで魚を追いかける



狙う魚は水中、潜って捕獲する



魚は跳ねて逃げる、それをキャッチする俊敏な動き

4. カワアイサは集団漁をすることがあります。獲物を浅瀬に追いやり、騒いで小魚をパニック状態にします。



2017/03/12 この漁にコサギが参加している。3羽のカワアイサとコサギ

次の写真は、松尾の桂川。鴨川より相当広い場所での出来事です
2010/01/17 探鳥会で、松尾から嵐山に向かう途中でした



魚の群れを見つけたのでしょう、カワアイサの小群が一斉に移動



カワアイサの集団漁法にカワウが参加。カワアイサは次々と潜っていく



コサギも参加



画面上には、カワアイサ5羽、コサギ1羽、カワウ1羽

☆ カワアイサの身体的特徴について

- ・まず、雌雄の頭部（冠羽、後頸部）の違いについて



2016/12/18 雌（左）に冠羽があるが、雄（右）に冠羽はない



2017/01/02 雄の後頸部は膨れているがまとまっている

雌模様には違いがあります 成熟雄を中心に、雌模様が4羽います



2017/02/19 左から、暗い栗色(1)、嘴爪の白(2)、明るい栗色(3)、雄(4)、冠羽がなく大きい(5)



2017/02/19 左から、冠羽がなく肩羽が黒い(1)、嘴爪が白い、頬線がある(2)、暗い栗色(3)、雄(4)、明るい栗色(5)

・体形について

体は、鴨の体形ではありますが、一般鴨よりやや流線形であります。水上では一般鴨より沈んで浮かんでいます。浮力を抑えて潜水しやすいようにできているのでしょう



2017/02/19 体が沈んでいる 尾羽が水面下にある



2012/03/29 体が半分沈み細長い。陸鴨よりとてもスマートに見える



2015/04/17 水中には、ずっと潜れない。少し浮き上がって、体重をのせて潜水するようです

ちなみに、カワウはカワアイサより体はより流線形であり、水上では体がカワアイサより、沈んでいます。そのため潜水するときは浮き上がらずに、ずっと潜ることができるようです。





・カワアイサの脚は、潜水しやすいように一般陸鴨よりやや後方についています。ペンギンのように立つことができます。



2015/04/17 まさしくペンギンのように立ちますが、歩くときは、ペンギン歩きではなく、鴨歩きなのです



2012/03/26 浅瀬で立っているところ、この行動はしばしば観察できます

- ・カワアイサは、水面から飛び立つときは、助走が必要です。



2012/03/26 数歩の助走では飛び上がれない、長い滑走路が必要です



2017/02/19 忍者水上走り みたいでしょう

・嘴について

俊敏な動きで遊泳中の魚を上手に捕獲する魚食専門のカワウと比べると、カワアイサは、カワウほど流線形ではありません。首は短く体は太い。すると、カワウより魚の捕獲が困難とおもわれます。やっとな魚の体の一部分をつかんでも逃がしてしまう。それを避けるためには嘴に滑り止めとなるギザギザの突起が必要ですね。鴨の嘴の縁には板歯という細かいギザギザがありますが、カワアイサは、その板歯がノコギリ歯状に発達したようですね（ウには板歯はない）。



2017/04/02 一度、捕まえたものは離さない。

また、石の間に潜んでいる、砂の中に隠れているという魚を捕まえるという方法があります。鴨の幅の広い嘴ではうまくいかない、誰でもピンセットのような細い嘴が有利とおもうでしょう。鴨が魚を捕獲するには、鴨の幅広い嘴を細くし、板歯を滑り止めのノコギリ歯状の突起にする必要があるとおもわれます。カワアイサは鴨でありながら魚食の道を選びました。ピンセットのような嘴と滑り止めの鋸状板歯を手に入れて。

(ちなみに鴨でこのノコギリ歯状の突起があるのはアイサ類だけで、また、その中で特に発達しているのはカワアイサであります)



2017/02/19 ノコギリ歯状に発達した板歯。

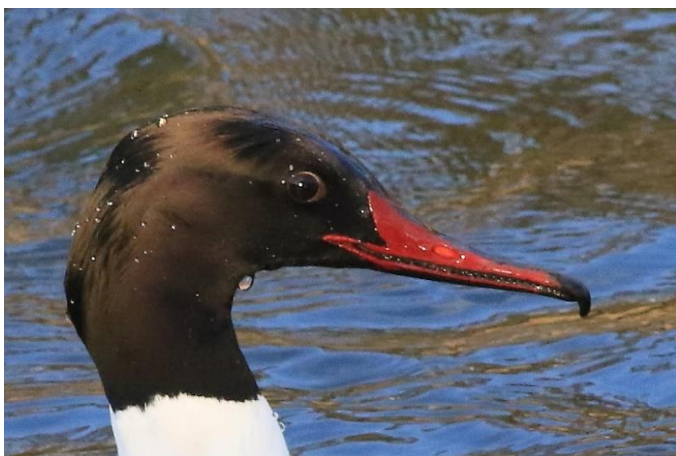
ノコギリ歯状の突起（板歯）は、捕まえた魚が外（前）のほうへと逃げにくく、また、飲み込みやすいように、歯先は喉の方向に傾斜しています。うまくできていると感心しているところです。



2017/03/05 潜水して石の隙間を探索しているところ

・嘴爪について

鴨の嘴の先端は、嘴爪（はしづめ nail hooked）という少し鉤状な突起がある。カワアイサはその突起が特に大きい、雄はまたさらに大きい。この雄の大きすぎる突起は、餌捕りに関係があるのだろうか、餌捕りに有利なものとするれば、カワアイサの雄に限らず雌、若鳥、幼鳥も同じ形であるはずです。成熟雄にだけ立派ということは、セックスシンボルであるとおもわれます。



2017/02/19 成熟雄の嘴爪は立派です。黒い、折れ曲がって長い。



2017/01/02 成熟雌の嘴爪は、上品に小さく短く黒い。少し折れ曲がっている



2017/02/19 黒くない嘴爪もあります。小さく白くて短い。若いと思われる個体にみられます

☆ 雌模様について

野鳥観察者からは、カワアイサがいたが、雌ばかりだった、ということをよく聞きます。そんなことはないだろう、とおもって雌模様を調べてみることにしました。それには、秋に飛来した美しい熟女を十分に観察しましょう。



2017/01/02 成熟雌の①頭部は茶色です（鮮やかな栗色）。下嘴基部（喉部）は白い。②冠羽は長く散切り頭のバサバサ髪でとても特徴的。③背は均一な薄い灰色。④嘴は鮮やかなピンク色、上嘴と下嘴の接合部は黒くなく嘴色。⑤嘴の先端の嘴爪は上品に小さく鉤状で黒い（雄は大きく鉤状）。この5点が、成熟雌の特徴とおもっています。

なぜ、そのようにおもう（定義づける）か、というと、雌模様には「違い」があります、多くの相違点があるのです。そして雌模様が雄模様よりたくさんみられるからです。3対1ぐらいでしょうか。



2017/02/19 雄模様は、中央の1羽だけ、他4羽は雌模様。この4羽はすべて雌なの
でしょうか

カワアイサの雄は雌に比べて神経質であるといわれており、人目を避けている場合があります。だから少ないのでしょうか？あまり多数みることは
ないのです。しかし、春先では、鴨川の環境に慣れ、人間にも馴れてきて、雄も徐々に大胆になってくるのでしょうか。雄に巡り合う機会が多くな
ります。雄も人間を怖がらずに、悠々と泳いでいます。



2017/03/05 私の目の前 10m 以内を悠々と泳ぐ雄

しかし、とにかく雌雄模様の比率があいません、どうみても雌模様の数が多いのです。そこで、ハッキリとした成熟雌模様（先に提示しました4枚のべっぴんさん）を頭に叩き込んでいただいて、「雌らしきもの」と比較することにしました。いままで雌模様といていたものたちです。

雌模様には、成熟雌、若い雌、若い雄、雌雄判別しにくい幼鳥がいると考えられます。幼鳥とは、飛来した10月ころから12月ころまでのもの、若い雌雄は年を越した1月ころから渡去する4月上旬ころまでのもの、といたします。成熟雌は1年半以上とし、2年半以上は熟熟雌（鮮やかで明るい栗色の美しい個体がいる）と考えています。雄も1年半で雄模様になりますが、頭部の色（黒～緑）、嘴爪の長さの違いがあるので、2年半以上のものは熟熟雄と判定できるのではと考えています。

頭部の色の濃淡、嘴爪と嘴の状態、顔の模様、冠羽の状態、肩羽の色模様、などの変化に注目することにしました。

次に雌模様の写真を提示し違いを見てみることにします

まず、最初に、10月早々に飛来した幼鳥とおもわれるもの



2015/10/04 冠羽がとても短い、嘴の色に鮮やかさがなく、嘴爪も黒くなく短い。顔の色はやや暗い栗色である。嘴基部には白い頬線が認められる。これらのことにより、幼鳥と判定しますが、まだ性別は分かりません。複数羽の場合、体格差が認められると判別できるかもしれません。

1回目の冬の幼鳥とおもわれる、飛来して間もない12月中旬



2016/12/18 冠羽は短い、嘴に鮮やかさがなく、嘴爪は黒くない、嘴の接合部は黒くない、頬線がある、背部は灰色ということから、私は、幼鳥とおもいます

次の①、② は 2016/01/03, ③は 2016/01/02 に同じ場所で撮影したものです。3枚の写真はすべて雌模様ですが、相違点があるようです



①は、頭部はやや暗い栗色であります。冠羽が少し伸びてきているように感じます。嘴は鮮やかさがありますが、その先端の嘴爪は白い。黒色ではありません。また上下嘴の接合部は嘴色です。目頭の白斑は白い過眼線として認められます。背は薄い灰色です。



②は、頭部は暗い栗色であり、後頸部の羽は少しバサついていますが散切り頭の冠羽は認められません。嘴爪は白く黒色ではありません。上嘴と下嘴の接合部は黒い線として認められます。私は、この個体には厳つい雰囲気を感じます。

並べて比べてみると、その違いが分かります。



③ 両者（①、②）を並べてみると、体格の差、冠羽の差、雰囲気の違いが認められ、雌雄の性差が感じられます。向こうが若い雄、手前が若い雌とおもわれます。

・板歯・嘴爪の色について

カワアイサには板歯が発達したノコギリ歯がありますが、それには色の違いが認められます。成熟雄の板歯は黒いのです。成熟雌は黒くありません、嘴色であります。雄の場合、幼鳥から若鳥、成鳥へと成長するに従い板歯は徐々に黒くなると考えられます。また、嘴爪も色の違いが認められます。雌雄の成鳥は黒いですが、幼鳥や若鳥は黒くありません。嘴爪も雌雄とも、成長とともに徐々に黒くなると考えられます。ですから、板歯と嘴爪の色の变化で、雌模様の個体の雌雄の判定に役立つのでは、と考えます。



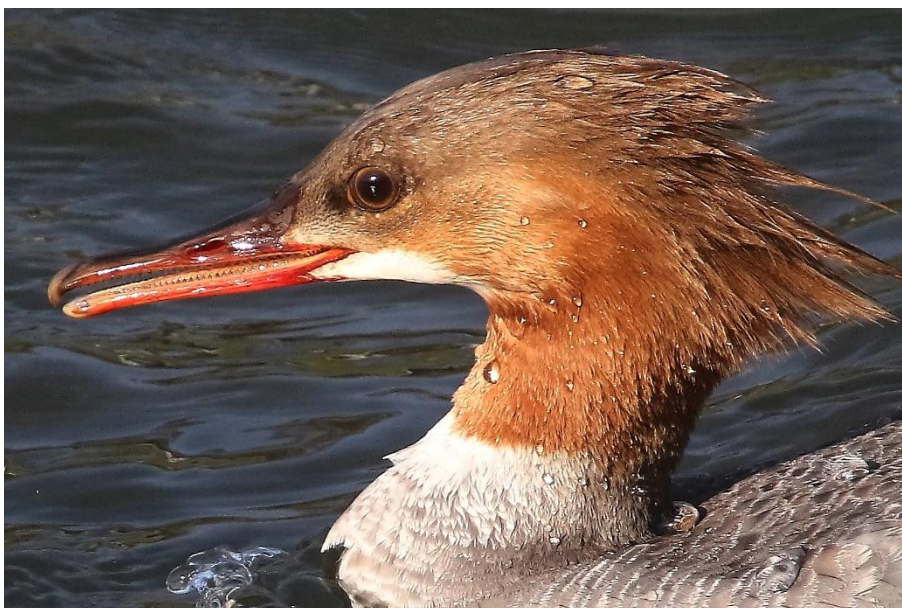
2016/12/25 成熟雄のノコギリ歯（板歯）は黒い、嘴爪も黒い



2017/04/02 頭部は雌色の栗色だが冠羽がない、ノコギリ歯は黒く認められる。
嘴爪も黒く長くなってきている。この個体は若雄とおもわれる



2017/02/19 前列は、冠羽と嘴爪からすると雌成鳥ではありますが、板歯は黒くありません



2015/04/17 この個体は、冠羽はバサバサ、嘴爪と板歯は黒くないという状態です。撮影時期から考えて、若い雌とおもわれます（受傷した個体、渡去が遅れている）



2017/01/02 3羽の雌模様が並びました。少しずつ差異が認められます。

右：嘴の色は鮮やかさがなく、嘴爪は黒くない 1歳未満の若雌とおもわれる

中央：嘴は鮮やか、嘴爪は黒い、1年半以上の雌成鳥とおもわれる

左：とても綺麗、明るい栗色の顔、鮮やかな嘴、黒い嘴爪 2年半以上の熟女？

1回目の春を迎える若雌と若雄とおもわれる雌模様について



2017/03/16 冠羽が少し伸びてきている、板歯や嘴爪は黒くない。美しさを感じられない。この個体は若い雌とおもわれる

・肩羽の変化

年を超えて、春に向かう頃、雌模様の肩羽が、段々黒くなってくるものを見ます。冠羽は伸びずバサバサとになっていないようです。



2017/03/05 後頸部は長いが冠羽はない、肩羽が黒い、嘴爪と接合部は黒い



2017/04/02 冠羽がなく、後頸部の羽はまとまりつつある、嘴の接合部は黒くみえる、嘴爪も黒い。肩羽はやや黒くなってきている。

成熟雌の背部は灰色で、成熟雄の背部は黒いことから、肩羽が黒くなることは、雄の色彩に近づいている、成鳥している証なのだ、と考えられます。肩羽が黒い個体は、若い雄と判定します。

- ・雄と雌の体格差

雄は 70 cm 雌は 60 cmほどといわれている

このことにより雌模様が複数羽並んだばあい、大きいほうは雄であろうと推測できます。このことは、とても簡単な雌雄判別法といえるでしょう。



2017/01/02 2羽とも雌模様であるが、右側は明らかに大きい



2017/02/19 2羽とも雌模様であるが、右側は明らかに大きい



2017/02/19 後列のほうが一回り大きい、嘴の接合部は黒い、冠羽はない、背中の色は少し濃くなってきている、若雄とおもわれる。前列は美しく冠羽も長い、嘴は鮮やか、板歯は黒くなく、嘴爪は黒い、成熟雌とおもわれる



2017/03/05 右側のほうが明らかに大きい、肩羽は少し黒い、冠羽はない 若雄とおもわれる。左は小さく嘴に鮮やかさがなく、嘴爪も黒くない若雌とおもわれる

以上のことから、雌模様の性別と成熟度について考えてみました。

☆ 雌模様の变化について

成熟雌① 若雌② 若雄③ 幼鳥④ に分けてみました

- ① 成熟雌とは、生後1年半以上経過、嘴爪は黒い、板歯は黒くない、冠羽は長い、とても綺麗、顔は明るい栗色、美しい
- ② 若雌とは、生後1年未満、初めて春を迎える、嘴爪は黒くない、板歯は黒くない、冠羽は少し長い、頬線があることもある、綺麗
- ③ 若雄とは、生後1年未満、初めて春を迎える、嘴爪は少し黒く少し長い、板歯は少し黒い、冠羽はない、体格は大きい、肩羽が黒くなりつつある、厳つい顔
- ④ 幼鳥とは、生まれて初めて越冬地に赴き初めての冬を迎えるもの、嘴爪は黒くない、板歯は黒くない、冠羽は短い、幼い雰囲気がある、頬線が目立つ、比較がないと性差は分かりづらい、可愛い

次に、各部分の違いから分けてみました

- | | |
|------------|---------------------|
| ・頭部（顔）の羽色 | 明るい栗色①、と暗い栗色②③④ |
| ・冠羽の長さ | 長いもの①、と短いもの②③④ |
| ・嘴爪の色 | 黒いもの①、と白っぽいもの②③④ |
| ・嘴の色 | 鮮やかなもの①、と濁っているもの②③④ |
| ・上下嘴の接合部の色 | 嘴色のもの①②④、と黒いもの③ |
| ・板歯の色 | 嘴色のものと①②④、と黒いもの③ |
| ・肩羽の色 | 灰色のもの①②④、と黒いもの③ |
| ・体格 | 小さいもの①②④、と大きいもの③ |
| ・頬線 | ないもの①と、白いものがあるもの②③④ |

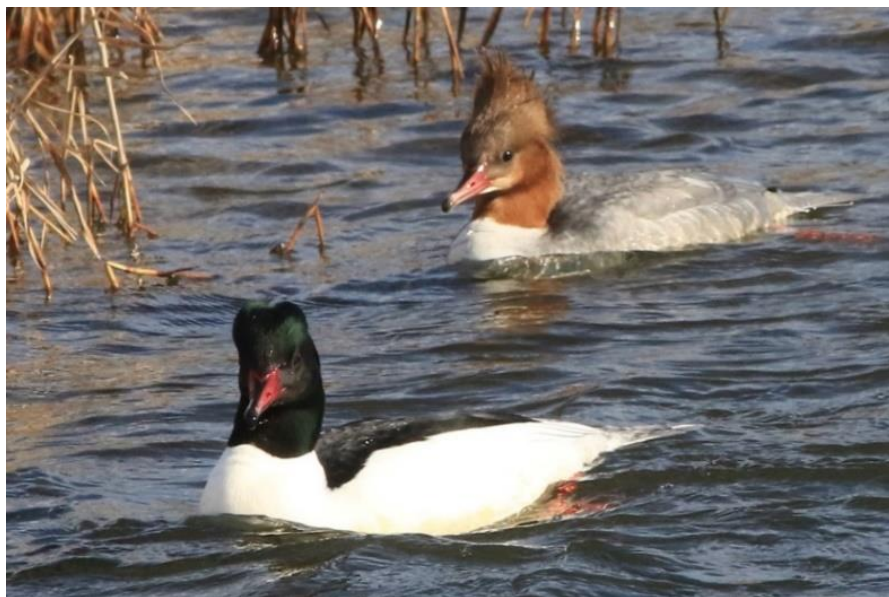
以上の分け方は、私の観察から考え出したものであり、いわゆる私見です。間違いの訂正は、私の今後の観察によって自ら行いますが、ご意見、ご批判がありましたら、よろしくお願いいたします

成熟した雌雄の容姿の紹介 これぞ、成熟雌雄のカップルだ

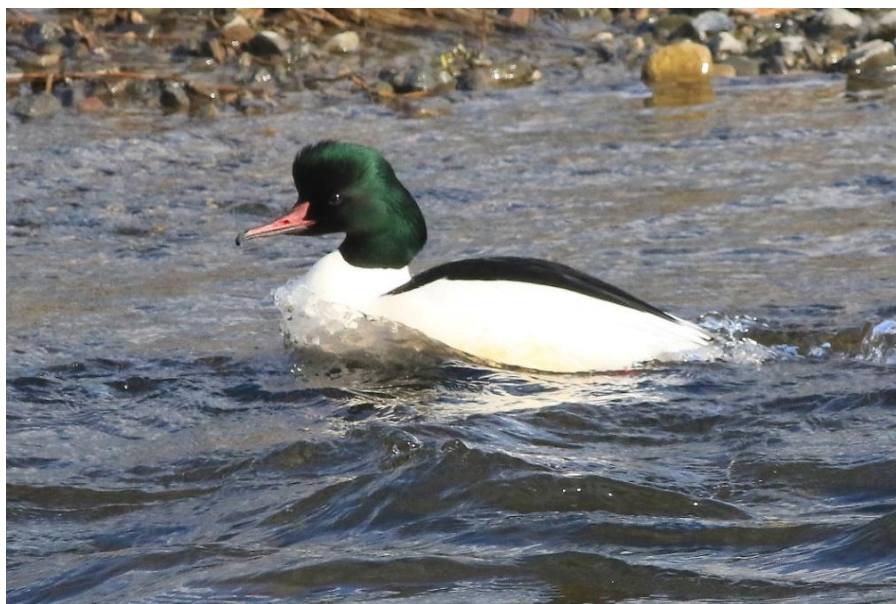


2017/02/19 黒く折れ曲がった嘴爪、鮮やかな嘴、整髪剤でセットしたような頭、そして厳つい顔、これぞ成熟雄です。こじんまりとした黒い嘴爪、鮮やかな嘴、黒くない板歯、長い冠羽、美しい明るい栗色の顔、これぞ成熟雌であります。

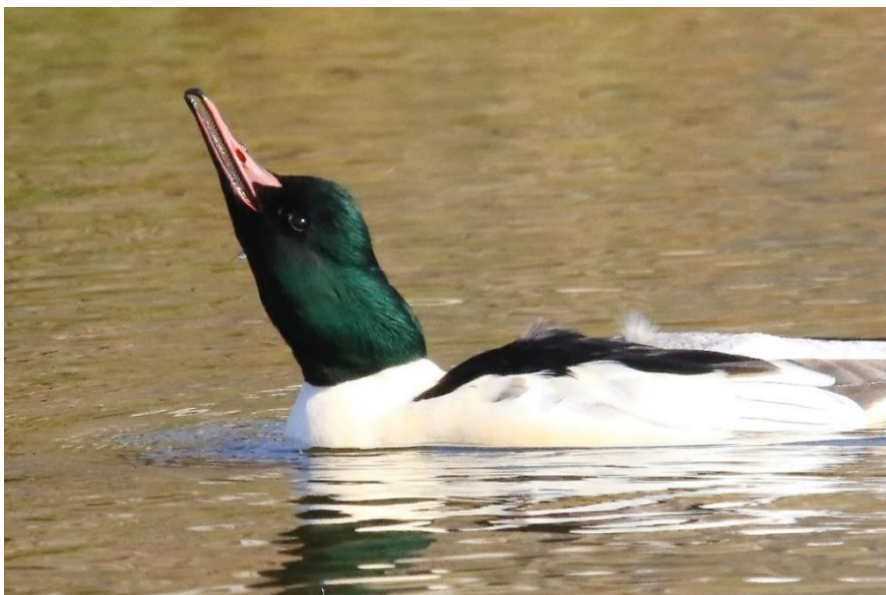
雌を意識して、頭頂部を膨らませ、僕の嫁になってくれと意思表示をしているのでしょうか。興奮すると雄の頭部の形が変化します。



2017/02/19 2羽は成熟雌雄。雄の頭頂部は二つの山に盛り上がっている



2017/02/19 頭頂部を膨らませている ディスプレーとおもわれる



2016/12/11 雄のディスプレイ行動のひとつ。水を飲む動作です。 転位行動といわれています

最後に、カワアイサのわたしのお気に入り生態写真を数枚紹介し、終わります。もう少しお付き合いください。性別や成熟度を考えながら、カワアイサの生態をお楽しみください。



2015/04/17 美しい、優雅な姿勢



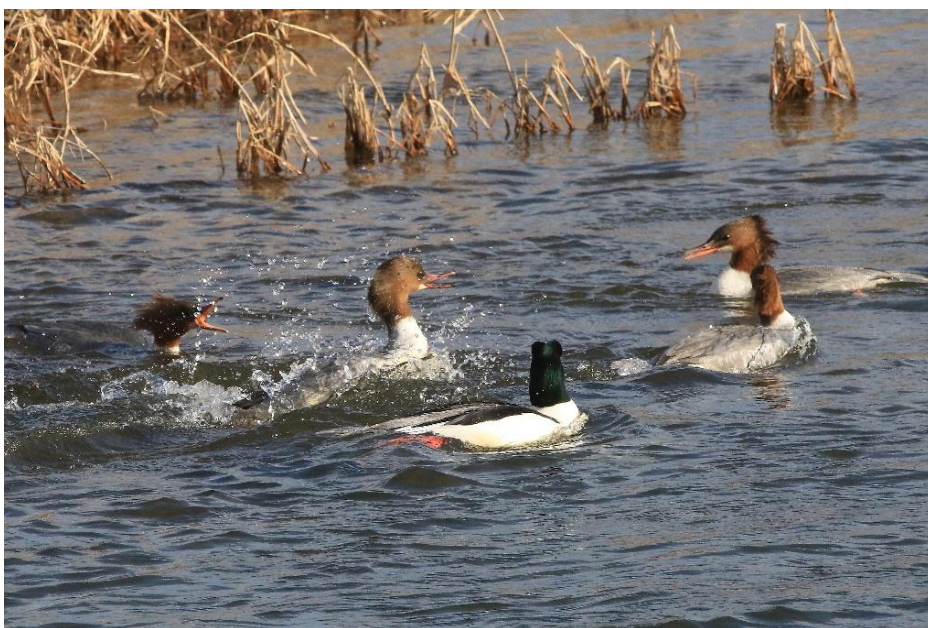
2015/04/17 鴨川では至近距離で観察ができます



カワアイサの凜とした態度



2016/12/25 雄同士の争い、カワアイサは、争いが絶えない



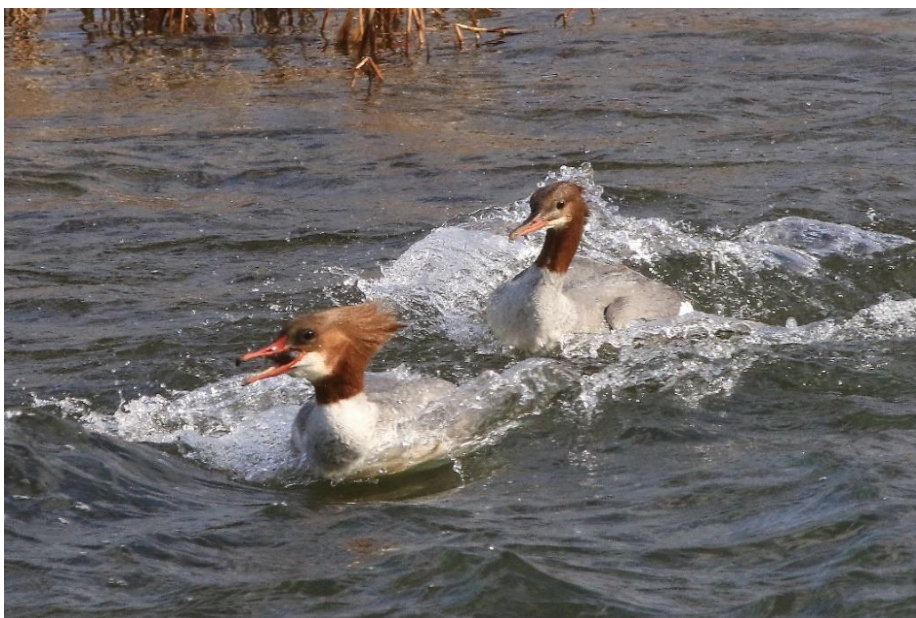
2017/02/19



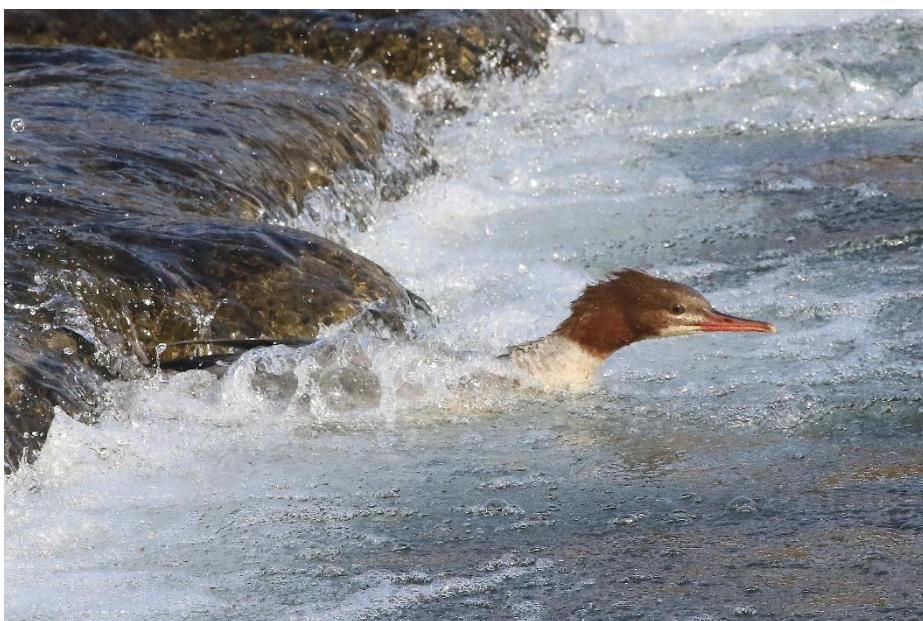
2017/02/19



2016/12/25 川底に棲息する「カマツカ」を捕らえ食べるところ



2017/02/19 魚を捕獲すると周囲のものが追いかけることがある、おこぼれを期待しているのだろうか



2017/01/02



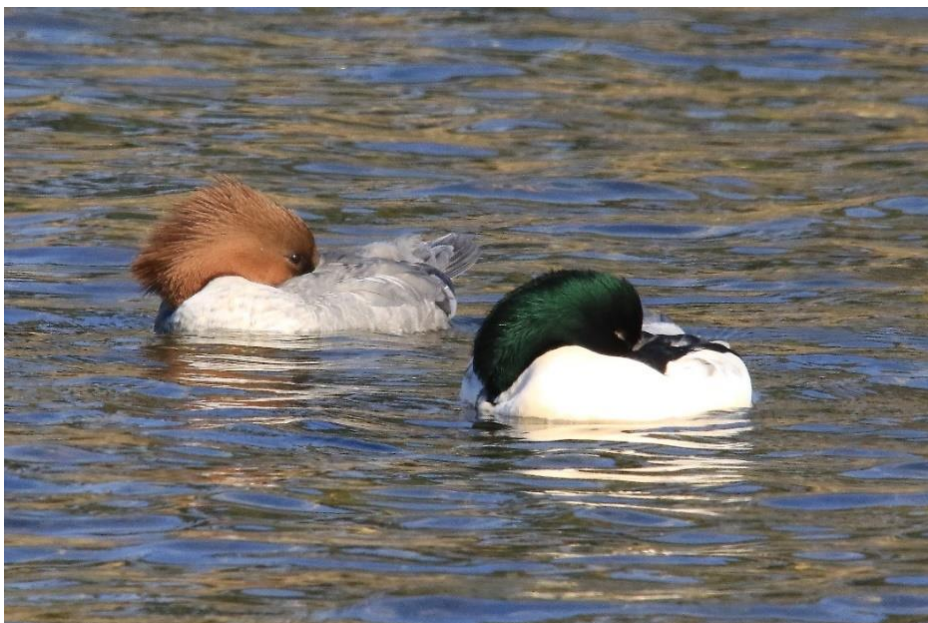
2017/04/02 川底に棲息する「カマツカ」を捕らえる



2017/03/15



2016/12/11 腹部は薄いピンク色



2016/12/18 水上で仮眠している

最後まで、たどり着いていただきましてありがとうございます。写真のように、ゆっくりお休みくださいませ。

これを機会に、カワアイサをみてみよう、とおもっていただければ、私、とても幸いです。

私は、カワアイサが、いつまでも鴨川に飛来し、私たち京都市民を喜ばせてくれることを願っております。

2017 年 9 月吉日

野鳥生態研究家（自称）

京都野鳥の会員 三宅 慶一